

議会だより つしま

No.9

2020

8月

令和2年

不要不急の
島外への外出は控え
人との接触を
最大限減らすべし

島は島なりに治めよ

新型コロナウイルス感染症対策啓発ポスター 初代対馬藩主 宗 義智 公  Izuhara Printing

- ★6月定例会あらまし・委員会審査報告・・・2
- ★6月定例会一般質問・・・・・・・・・・・・・・3～6
- ★所管事務調査報告・・・・・・・・・・・・・・6～7
- ★要望書の提出について・編集後記・・・・・・8

発行：対馬市議会

編集：対馬市議会広報編集特別委員会

〒817-1201 長崎県対馬市豊玉町仁位380番地

TEL 0920-58-1379 FAX 0920-58-1018

E-mail t_gikai@city-tsushima.jp



6月定例会あらまし

6月定例会は、6月16日から6月26日までの11日間の会期で開かれました。今定例会では、令和2年度一般会計補正予算等28件が提出され、慎重審議の結果、いずれも原案のとおり承認、可決となりました。市政一般質問は9人が登壇し、活発な議論が展開されました。

◎主な議案

- 専決処分の承認を求めることについて条例改正案4件
- 令和元年度対馬市一般会計継続費繰越計算書についてなど報告3件
- 令和2年度対馬市一般会計補正予算(第3号)など補正予算案6件
- 対馬市職員定数条例の一部を改正する条例についてなど条例改正案7件
- 対馬市庁舎建設整備基金条例についてなど新規条例案1件、廃止条例案1件
- その他議決案6件

委員会審査報告

議会において、提出された議案等を慎重に審査するため、所管の常任委員会に付託することができま。各委員会は、付託された議案等を詳しく審議し、議案等の可否を採決し、委員会としての意思を決定します。委員長は、審査報告書を議長に提出し、本会議において報告をします。今定例会においては次のとおり審査報告がされました。

総務文教常任委員会

委員長 坂本 充弘

◎付託された案件(2件)

- ①令和2年度対馬市一般会計補正予算(第3号)
- ②対馬市庁舎建設整備基金条例

◎審査内容

○総務費、衛生費、商工費、消防費、教育費、諸支出金、予備費に係る補正予算が計上され、自動運転実証実験共同研究事業負担金、消防ポンプ自動車購入費、小学校及び中学校のグラウンド改修工事、災害発生及び新型コロナウイルス感染症対策に係る予備費等について、また、庁舎建設整備に必要な資金を確保することを目的とした対馬市庁舎建設整備基金条例について審査を行いました。



審議の様子(写真は総務文教常任委員会)

厚生常任委員会

委員長 伊原 徹

◎付託された案件(1件)

- ①令和2年度対馬市一般会計補正予算(第3号)

◎審査内容

○総務費、民生費、衛生費に係る補正予算が計上され、住居確保給付金、一時生活支援事業補助金、無縁仏納骨堂の整備工事、不妊・不育症治療費助成金、発泡スチロールのペレット化装置導入等について審査を行いました。

産業建設常任委員会

委員長 長郷 泰二

◎付託された案件(1件)

- ①令和2年度対馬市一般会計補正予算(第3号)

◎審査内容

○農林水産業費、商工費、土木費、災害復旧費に係る補正予算が計上され、松くい虫被害対策委託料及び食害生物の島内流通実証実験委託料、産地水産業強化支援事業補助金、商工業レベルアップ補助金、厳原港国内ターミナルビル建設事業費及び公共住宅等ストック点検事業費等について審査を行いました。

9月定例会のお知らせ

令和2年第3回定例会は、9月8日(火)に開催を予定しています。

※日程は、9月4日に開催される議会運営委員会で協議された後、ケーブルテレビ、議会ホームページに掲載しますので、ご確認ください。

一般質問 ここが聞きたい

6月定例会一般質問 9人の議員が市政に対する一般質問を行いました。



一般質問とは

議員が議長の許可を得て、市長等に対し、市の行政全般について、事務の執行状況や将来の方針等についての所信や疑問を質し、報告や説明を求めるものです。

一般質問を行う場合は、通告書に要旨を記入し、事前に議長に提出します。

一般質問の時間は質問と答弁を合わせて50分以内としています。

（波田）「迎える」戦略において、新型コロナウイルス感染拡大により、国内外からの観光客が激減し、幅広い業種において多大な影響が発生している。今後、交通費や宿泊・飲食費の割引など、帰省しやすい政策（里帰り観光）を早期に実現させるべきと考える。また、水際対策が解除された後のインバウンドを迎える取組をどのように考えているか伺う。

（市長）現在実施中の事業に加え、第2弾として帰省客特典事業、観光業応援給付金などを追加する予定にしている。現在の諸措置が解除された後は、これまで培ってきた韓国との交流事業を再開しながら、台湾・香港などの新たな地域への誘致活動を積極的に推進したい。

（市長）まず尾浦から安神の区間に着手しており、トンネルについても早期に着手したいが、近年、予算の確保が厳しい状況のため、従来の交付金よりも補助率は低くなるが、確実な予算の確保が見込まれる交付金について移行の協議を進めている。

（波田）「迎える」戦略において、新型コロナウイルス感染拡大により、国内外からの観光客が激減し、幅広い業種において多大な影響が発生している。今後、交通費や宿泊・飲食費の割引など、帰省しやすい政策（里帰り観光）を早期に実現させるべきと考える。また、水際対策が解除された後のインバウンドを迎える取組をどのように考えているか伺う。

（市長）現在実施中の事業に加え、第2弾として帰省客特典事業、観光業応援給付金などを追加する予定にしている。現在の諸措置が解除された後は、これまで培ってきた韓国との交流事業を再開しながら、台湾・香港などの新たな地域への誘致活動を積極的に推進したい。

（市長）感染症対策を担う対馬保健所と情報共有を図りながら、市ホームページ、防災行政無線を段階的に活用し、感染予防の周知啓発を行ってきた。新型コロナウイルス感染症防止並びに経済対策の両面から市民生活を維持するため、緊急経済対策推進室を設置し推進していく。

（波田）「迎える」戦略において、南部地区道路整備及び安神トンネル整備については、路線の利用率や市民の利便性から最優先で整備を進めるべきだと考える。最終処分場がある安神地区へのアクセスを鑑みた場合、決して後回しできないと思うが市長の決意を伺う。



波田 政和議員

（市長）まず尾浦から安神の区間に着手しており、トンネルについても早期に着手したいが、近年、予算の確保が厳しい状況のため、従来の交付金よりも補助率は低くなるが、確実な予算の確保が見込まれる交付金について移行の協議を進めている。

（波田）「迎える」戦略において、新型コロナウイルス感染拡大により、国内外からの観光客が激減し、幅広い業種において多大な影響が発生している。今後、交通費や宿泊・飲食費の割引など、帰省しやすい政策（里帰り観光）を早期に実現させるべきと考える。また、水際対策が解除された後のインバウンドを迎える取組をどのように考えているか伺う。

（市長）現在実施中の事業に加え、第2弾として帰省客特典事業、観光業応援給付金などを追加する予定にしている。現在の諸措置が解除された後は、これまで培ってきた韓国との交流事業を再開しながら、台湾・香港などの新たな地域への誘致活動を積極的に推進したい。

（市長）まず尾浦から安神の区間に着手しており、トンネルについても早期に着手したいが、近年、予算の確保が厳しい状況のため、従来の交付金よりも補助率は低くなるが、確実な予算の確保が見込まれる交付金について移行の協議を進めている。

（波田）「迎える」戦略において、新型コロナウイルス感染拡大により、国内外からの観光客が激減し、幅広い業種において多大な影響が発生している。今後、交通費や宿泊・飲食費の割引など、帰省しやすい政策（里帰り観光）を早期に実現させるべきと考える。また、水際対策が解除された後のインバウンドを迎える取組をどのように考えているか伺う。

（市長）現在実施中の事業に加え、第2弾として帰省客特典事業、観光業応援給付金などを追加する予定にしている。現在の諸措置が解除された後は、これまで培ってきた韓国との交流事業を再開しながら、台湾・香港などの新たな地域への誘致活動を積極的に推進したい。

（市長）感染症対策を担う対馬保健所と情報共有を図りながら、市ホームページ、防災行政無線を段階的に活用し、感染予防の周知啓発を行ってきた。新型コロナウイルス感染症防止並びに経済対策の両面から市民生活を維持するため、緊急経済対策推進室を設置し推進していく。

（波田）「迎える」戦略において、南部地区道路整備及び安神トンネル整備については、路線の利用率や市民の利便性から最優先で整備を進めるべきだと考える。最終処分場がある安神地区へのアクセスを鑑みた場合、決して後回しできないと思うが市長の決意を伺う。



小島 徳重議員

（市長）まず尾浦から安神の区間に着手しており、トンネルについても早期に着手したいが、近年、予算の確保が厳しい状況のため、従来の交付金よりも補助率は低くなるが、確実な予算の確保が見込まれる交付金について移行の協議を進めている。

（波田）「迎える」戦略において、新型コロナウイルス感染拡大により、国内外からの観光客が激減し、幅広い業種において多大な影響が発生している。今後、交通費や宿泊・飲食費の割引など、帰省しやすい政策（里帰り観光）を早期に実現させるべきと考える。また、水際対策が解除された後のインバウンドを迎える取組をどのように考えているか伺う。

（市長）現在実施中の事業に加え、第2弾として帰省客特典事業、観光業応援給付金などを追加する予定にしている。現在の諸措置が解除された後は、これまで培ってきた韓国との交流事業を再開しながら、台湾・香港などの新たな地域への誘致活動を積極的に推進したい。

（市長）まず尾浦から安神の区間に着手しており、トンネルについても早期に着手したいが、近年、予算の確保が厳しい状況のため、従来の交付金よりも補助率は低くなるが、確実な予算の確保が見込まれる交付金について移行の協議を進めている。

（波田）「迎える」戦略において、新型コロナウイルス感染拡大により、国内外からの観光客が激減し、幅広い業種において多大な影響が発生している。今後、交通費や宿泊・飲食費の割引など、帰省しやすい政策（里帰り観光）を早期に実現させるべきと考える。また、水際対策が解除された後のインバウンドを迎える取組をどのように考えているか伺う。

（市長）現在実施中の事業に加え、第2弾として帰省客特典事業、観光業応援給付金などを追加する予定にしている。現在の諸措置が解除された後は、これまで培ってきた韓国との交流事業を再開しながら、台湾・香港などの新たな地域への誘致活動を積極的に推進したい。



坂本 充弘議員

◆新型コロナウイルス感染症に係る緊急経済対策

(坂本) 県の緊急事態宣言は解除されたが市内の経済は深刻だ。第2弾の経済対策をすべきでは。

(市長) 島民クーポン券を販売し、市民の消費額拡大を図り、市内事業者の下支えをしたい。併せて、「しま旅商品」、「行つ得! つしまクーポン券」及び「観光クーポン券」の販売再開を準備。水産業は基準を設け漁業者緊急支援助成金の拡充に取り組む。農業全体では国の高収益作物次期作支援交付金を推進する。林業は輸出原木保管等緊急支援事業と合わせた支援策を講じる。

◆比田勝港の整備計画

(坂本) 比田勝港の整備計画は。①網代地区の本造棧橋の整備計画は。②古里地区の護岸計画の進捗状況は。③漁協建物跡地の舗装は。

(市長) 国際旅客航路関連整備として浮棧橋1基、国際ターミナル前岸壁の舗装、国際定期便利用客乗降用屋根整備、西泊カミレイ前岸壁耐震強化整備、古里地区に物揚場と道路整備を計画。①地区の管理困難で撤去する。市道護岸の越波対策は地区と協議を継続する。②今年度実施設計し、令和3年度着工、令和5年度完成に向けて取り組む。③駐車場の再整備は必要。用地の有効活用を図るため商業施設等の誘致の可能性や駐車場整備の具体策等を検討中。

◆鳴滝自然公園遊歩道の再整備

(坂本) 鳴滝遊歩道の再整備については。

(市長) 歩道への落石や路面の劣化、防護柵のチェーンの腐食が随所に見られる。遊歩道も含め園内の安全確保と景観保全を図るため計画的に整備していく。



小宮 教義議員

◆新型コロナウイルス経済対策等について

(小宮) ①准組合員にも助成金の拡充を図るべきではないか。②固定資産税の国の軽減等の措置に

ついて市の対応を伺う。

(市長) ①対馬市漁業者緊急支援助成金については、支援対象者数が約4割にとどまっていることから、一定の基準を設けつつ支援拡充に取り組んでいく。②固定資産税は、市が提供する行政サービスと、資産の保有に着目して、応益原則に基づき課税する基幹税であることもあり、市としては、国の軽減以上の対応は難しいものと考えている。

◆安定的な漁業経営の確保について

(小宮) 有人国境離島法の活用はできないか。

(市長) 有人国境離島法については、現在、内閣府所管事業の社会維持推進交付金において、運賃低廉化、輸送コスト支援、雇用機会拡充、滞在型観光促進等が実施されており、本市にとって非常に有効な事業であることから、今後有効活用に努めるとともに、更なる事業内容拡充についても、必要に応じて長崎県と連携しながら国へ要望していく。

◆現在の執行体制について

(小宮) 新副市長体制で2期目を迎えたが、予想以上に経済が緊迫している。副市長2人体制で対処する考えはないか。

(市長) 幅広い分野に目を向け、適切な人材を求め、早い時期に議会へ提案できるよう考えている。



伊原 徹議員

◆人口減少によって及ぼす本市の経済活動の影響と少子化対策

(伊原) 人口減少により消費の低迷、経済活動などに影響のないよう、持続可能な長期の社会経済が維持できる体制整備が求められるが考えを伺いたい。

(市長) 3月末現在の住民基本台帳上での人口は、3万人を割り込んだ。人口減少抑制対策実現のため、Uターン、また、縁結びプロジェクトを推進し、男女の出会いの場から結婚までフォローする施策を整えている。人口増の目的達成のため、改定した第二期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、第一期で取り組んだ事業、施策の継続拡大と持続可能な開発目標であるSDGsの実現と長期人口ビジョンで示した島外からの移住・定住と併せて出産から子育てまで切れ目のない支援策に取り組むことにしており、人口減少に歯止めをかけた。

(伊原) 平成当初の年間出生数は569人から近年では200人以下となった。次世代を担う子どもたちを増やすための施策として、結婚祝い金や出産手当の増額、入学祝い金などの拡充はできないか。

(市長) 合計特殊出生率は、県下市町では、2・16で第2位。また、妊娠から出産、乳幼児支援策として、ファミリーサポートセンター事業の開始に向けた取り組み、さらに出生数を増やすため、新たに不妊・不育症治療費の助成事業を開始する。

◆災害時における避難所での感染防止対策

(伊原) 新型コロナウイルスを柱とした避難所での感染対策はどのような手段を考えているか伺う。

(市長) 感染症対応要領を早急に策定するため準備を進めている。



春田 新一議員

◆市営住宅改善と子育て
応援策について

(春田) 市営住宅の家賃の設定はどのような基準で定めているのか。また、見直す考えはないのか。上県町の日吉団地A棟B棟、上対馬町の新古里団地、両棟とも4階建てでエレベーターも完備され、間取りも2LDKと3LDKと広く、生活環境も良く、子育てに適した住宅である。しかし、所得が上がれば最高家賃は日吉団地で9万5300円、新古里団地は10万4500円となり、都市部の家賃と同様になる。最高家賃の見直しはできないか。

(市長) 家賃については、公営住宅法で指定されているので市独自では決めることはできない。最高家賃が課せられる収入超過者もしくは高所得者は住宅の明け渡し努力義務が課せられる。

◆移住促進と持続可能な地域づくりについて

(春田) 移住から定住まで手厚い支援で住んで良かったと思える地域づくりに更なる行政の手腕が試されるが、今後どのような支援で拡大を図っていくのか。

(市長) 今後、都市部からの移住が増えると思うので、住居対策、支援住宅の準備、空き家バンク制度等に取り組み、対馬に移住してよかったと思えるように取り組んでいきたい。

◆地方港湾比田勝港の整備促進について

(春田) 本港は干満差があり、特に干潮時の陸揚げ作業は漁業者の負担が大きいため、浮桟橋の設置ができないか。

(市長) 漁業者の作業の効率化と安全性向上、また、高齢化する漁業者の負担軽減を図るため、昨年10月に市と上対馬町漁協の連名で、県へ浮桟橋の設置を要望した。現在、上対馬町漁協管内の港湾及び漁港を含めた陸揚・荷捌き機能の集約化計画の作成を漁協にお願いしており、今後も県と連携し、比田勝港の整備促進に取り組んでいく。



吉見 優子議員

◆志賀ノ鼻大橋に街灯の
増設と歩道内の花壇の整
備について

(吉見) 改善された箇所を伺う。

(市長) 県が街灯1本、

市が2本設置した。更に、県においては3本の照明灯を予算要求中ではあるが予算化に至っていない。花壇の整備についても防草シートを設置しているが、雑草の成長も早く、維持管理を振興局にお願いしている。

◆トンネルの表札(銘板)及び照明の整備について

(吉見) 改善された箇所を伺う。

(市長) トンネルの銘板は5年に一度の定期点検に併せて清掃を実施している。照明については、県においてはこれまで28本のトンネルでLED化し、今年も3本のトンネルを予定している。

◆蔵原体育館の雨漏り対策について

(吉見) 全体的に見直し、思い切った改修が必要ではないか。

(教育長) 昭和58年の建設から様々な箇所に老朽化が見られ、平成25年と29年に部分的に改修し、雨漏りは一時的に止まっていたが再度状況を調査し、必要に応じた改修を行い、利用環境の向上に取り組む。

(吉見) 今後、大改修をするのか、ほかの土地に立て直すのか。

(教育長) 耐用年数はあと11年もあり、フロアも使用に支障がないため改修を行いながら可能な限り利用していきたい。

◆ごみ収集袋可燃物用(小)の追加製造について

(吉見) 高齢化も進み、老夫婦世帯、独居老人、また、一人住まいの若者も多く、ごみの量も少ないため、追加製造が必要ではないか。

(市長) 日々の生活環境に対処できるように利便性の向上を図るため検証を行い、作成に向けて取り組んでいる。



長郷 泰二議員

◆持続可能なしまづくり
について

(長郷) 持続可能な「しまづくり」には、働く場、生活が成り立つ仕事が必要不可欠と考えるが、どのような産業を育成し、仕事を創設しようと考えているか伺う。

(市長) 農林水産業、観光業、自然保全を組み立てながら、漂着ごみ回収体験、猪・鹿を利用した製品づくり、民間によるエネルギー開発の普及、観光アドバイザーを観光物産協会に配置し、新たな視点で観光産業を推進する。また、協働隊3名を活用し、移住政策推進を図るための空き家調査、発掘を行う。

(長郷) 今回、新型コロナウイルス感染症拡大において、オンライン会議等が認知される結果となった。インターネットをはじめとする情報通信施設の効果を、どのように捉え、整備されるのか伺う。

(市長) 情報通信設備が脆弱であるので、国が進めるソサエティ5・Oに対応できるよう将来を見据えた情報通信基盤整備計画に着手している。今後は、IoT、AI社会を目指し、スマートフォン・タブレットを推進し、テレワークセンターの整備に取組み、移住・定住の促進に繋げていく。

(長郷) 総務省は公設光ファイバーケーブル及び関連施設の民間移行に係る支援措置を打ち出しており、本市の関連施設も譲渡できる環境にあると考えるがいかがか。

(市長) 情報通信基盤整備計画の中で、民間移行の可能性も視野に入れ研究していきたい。

(長郷) 本市の豊かな植物が絶滅の危機であるが、植物園を計画し保護していく考えはないか。

(市長) 自然を活かした島そのものが植物園となり得る構想をハード・ソフト含め研究する。



大浦 孝司議員

◆観光産業の危機について

(大浦) 昨年の7月以降、韓国人観光客は激減し、更に3月からは新型コロナウイルスにより入国拒否の状況が続いており、今後の見通しは立っていない。国内観光客誘致に方向転換し、取り組んでいるところであるが、令和元年度の実績について伺いたい。

(市長) 国県市の負担により、激減対策事業として、29件、7億4千万円の事業に取り組んだ結果、国内客は平成30年度より8千717人増え、14万3017人となった。

(大浦) 国の第2次緊急経済対策30兆円の使途について観光事業者の持続化給付金の積極的な活用を望み、何とか急場をしのいでほしい。

◆水産業の不振と対策について

(大浦) イカ釣り漁の長期に渡る不漁、クロマグロの漁獲規制により令和元年の漁獲金額は114億円にまで落ち込んでいる。全盛期の3分の1ということになる。このような状況に対応するのは漁業共済制度の加入以外にはないと思うが、昨年度の実績について伺いたい。

(市長) 補助件数451件、共済掛金1億200万円に対し、その10パーセントの補助金を支出している。

(大浦) 漁業経営者は全員加入する方向で漁協とスクラムを組んで進めてほしい。また、第2次の緊急対策の財源を活用し積極的に進めてほしい。

(市長) 確定ではないが、第2次の対策は、販売手数料の軽減についても検討している。

所管事務調査報告

常任委員会では、条例案その他議案の立案のためや問題点のある事務の改善を究明するため自主的にテーマを設定し、調査を行うことができます。調査結果については、報告書を議長に提出し、本会議において報告します。今定例会においては次のとおり調査報告がされました。

■厚生常任委員会

委員長 伊原 徹

本委員会は、令和2年4月15日に、新型コロナウイルス感染症対策に関する本市の対応等について所管事務調査を行いました。

本市の感染対策は、公民館や体育館、港などの公共施設に消毒液の設置、新型コロナウイルス感染症に関する情報について各地区へ回覧文書の配布、3月13日に対策本部を設置し、イベントの自粛要請の通知や厳原港及び比田勝港への感染予防に係るポスターの掲示などの感染予防策が講じられております。4月8日に、対馬保健所、対馬市医師会、対馬病院、上対馬病院、市役所の関係者において対馬地域医療体制検討会が行われ、対馬市での集団感染等の発生を想定した対応の手順などが協議されています。

委員から新型コロナウイルス感染対策について、①発熱等が確認できる体表面温度検知器（サーモグラフィー）の設置による航路及び航空路における水際対策強化の拡大

②感染の有無が40分以内で判定可能な新型コロナウイルス検査システムを対馬市内の医療機関

関へ導入

③重症者が発生した場合、感染症指定病院である対馬病院の受入病床数の確認や発熱外来の対応など、集団感染拡大を想定した島内完結型の医療提供体制整備の具体的な要望がありました。なお、状況によっては、自衛隊など国の協力体制が求められる可能性もあるため、対策会議や検討会などの関係者会議には参画してもらうことが望ましいのではないかと意見がありました。

また、新型コロナウイルス感染症対策に関する防災無線での放送は、市民にとって情報を共有できる確認手段の一つであることから、今後継続されることを望むものであります。



ソーシャルディスタンスを保ち、説明を受ける厚生常任委員

産業建設常任委員会

委員長 長郷 泰二

本委員会は、令和2年5月21日、飛鳥時代の古代山城「金田城跡」において、観光商工課及び文化財課より「金田城跡登山口のトイレ等整備計画について」説明を受けました。

「金田城跡」は、昭和57年3月に長崎県初の「国指定特別史跡」に指定され、また平成29年4月には「続日本100名城」に認定されるなど注目を浴びています。最近では、訪れる観光客も平成30年は約1,000人、令和元年は約1,500人と増加しています。

しかしながら、登山口付近にはトイレもなく、駐車場もわずかなスペースの状況であり、市としては10台分程度の駐車場の整備と完全自己処理型水洗トイレ1基を設置する計画の説明を受けました。

現在は、県道24号線沿いと登山口の2か所を候補地として検討が進められています。県道24号線沿いは駐車場スペース、トイレ設置等には問題ないものと考えられますが、登山口までは道路幅も狭く1・8kmの距離があること、登山口では駐車場スペースは確保可能と考えられますが、完全自己処理型水洗トイレの電源は太陽光発電電を利用し、遠隔管理システムにより監視することから、携帯電話の通信施設が必要となるなどの問題点があります。また、史跡の適正な管理を徹底する見地から、文化庁との調整も必要となります。

本委員会としましては、「金田城跡」の存在

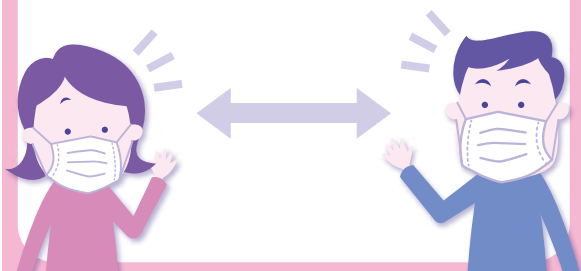
意義や市の史跡、観光に対する考え方を明確にし、長崎県知事や史跡及び旅行専門家との意見交換会を行い、取り組まれることを要望します。



説明を受ける産業建設常任委員（城山入口）

SOCIAL DISTANCE

新型コロナウイルス
感染症予防のために人と人との
距離を保ちましょう。



現地を確認する産業建設常任委員（城山登山口付近）

経済対策強化へ 要望書を提出

新型コロナウイルス感染症対策に関して、今後、対馬市として特に取り組んでいくべき重要な事項について、対馬市議会としての要望事項を取りまとめ、令和2年5月29日に議長及び副議長から市長へ要望書を提出しました。

要望内容

1 経済対策の強化について

事業活動に深刻な影響を受けている商工業事業者、農林水産事業者等全事業者の実態把握に努め、国・県の緊急経済対策の手が届かないところの助成等、すき間を埋める市独自の支援・施策等を、柔軟かつ迅速に行うとともに、雇用の維持と事業の継続を最優先とした第2弾の緊急経済対策を講じること。

2 出口戦略について

緊急事態宣言は解除されたが、感染症の収束への先行きが不透明な状況である。国のGoToキャンペーン等や県の動向を見極めたうえで、感染拡大を防ぎながら社会生活を取り戻すため、V字回復に向けた「出口戦略」に万全の体制を期すること。

3 新型コロナウイルス感染症対策の堅持について

第2波が予想されるので、今以上に、県及び関係機関との連携を堅持すること。

編集後記

「議会だより・No.9」が、市民の皆さんのお手元に届くのは、お盆のころになると思います。寄稿の時点(7月2日)では、首都圏でのコロナ感染者が、連日100人以上を超え、「次の波」への警戒が高まり、再び緊急事態宣言の発出も検討されているようです。人口密集の都市生活のリスクから遠隔地の対馬でもウイルス禍に無縁ではありません。地球規模・都市部での収束が見通せない中、対馬でも「新しい生活スタイル」をいかに持続するか悩ましい日々が続きます。

対馬市議会でも、市民の安全・安心の確保、経済対策のため、厚生常任委員会において所管事務調査を実施、また、議長名で市長へ要望書を提出し行政に提言しています。

6月定例会でも市民への支援対策について、一般質問等を通して活発な議論がなされました。厳しい経済状況、不安の中でお困りのことがあれば、行政や議会に遠慮なく御相談ください。

湿気の多い梅雨から厳しい暑さの時期に、皆さんが健やかに過ごされ、落ち着いた状況でお盆を迎えられることを祈念いたします。

議会広報編集特別委員会
別委員会も新しいメンバーを迎え再スタートします。より良い議会だよりを目指します。市民の皆さんの声をお聞かせください。
(文責：小島徳重)



議会広報編集特別委員会

【委員長】小島徳重 【副委員長】坂本充弘
【委員】小宮教義・大浦孝司